

藤波こども園

令和4年度 園長だより No.4

令和4年6月30日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

暑さに負けず 元気に過ごす子どもたち



暑さ厳しい日が続いていますが、子どもたちは元気よく、外遊びも楽しんでます。感染症の影響でできていなかった行事も行い、遠足やお散歩などにも楽しく活動しています。暑い日には園庭のスプリンクラーに大喜びの様子です。

自然を満喫

くつきの森 梅の子公園
おさんぽ ザリガニ釣り

5月の遠足がよほど楽しかったのか、6月にも月組の園児はくつきの森へ遠足に、合わせて4回、出かけました。3回目(6月22日)は途中であいにくの雨降りとなりましたが、めったに見ることのできない“カエルの産卵”を見ることができました。雨に濡れたり、ヒルの被害を受けたりもしましたが、帰りたがることもなく、「また来たい」の声もたくさんあり、4回目の「くつきの森」が実現しました。



の植物をホームの仲間と協力しながら探し、星組の園児は梅の子公園を散策し、自然をたっぷり楽しんで

いました。みんなで外でお弁当を食べるのは久しぶりで、お家で作っていただいたお弁当をおいしそうに食べていました。

園の近くを散歩してカエルをつかんだり、藤樹神社前の川でザリガニ釣りを楽しんだりもしていますが、朽木でのアカハライモリと同じように、いったんは虫かごやバケツに入れるのですが、帰り際には園児の話し合いが始まり、「かわいそうだから逃がしてあげよう」の意見が優先されて最後は逃がしてから園に帰ってきます。園児たちの優しさにほっとする瞬間です。



PTA作業

ありがとうございました



6月25日(土)、とても暑い日でしたが、月組、雪組、桃組の保護者の方に、たいへんお世話になりました。溝

の砂や泥を出していただき、とてもきれいになりました。また、プールも組み立てていただき、水遊びもできるようになりました。ありがとうございました。

CAP

～子どもへの暴力防止プログラム～

CAPとはChild Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったもので、子ども自身があらゆる暴力から自分の心と体を守る教育プログラムです。



月組の園児に3回、月組の保護者の方たちに1回、『CAP滋賀』より田中賀恵さんと白崎田鶴子さんに講師としてお越しいただき、ワークショップを行っていただきました。

園児には次のことを伝えていただきました。

- ・子どもには「安心して」「自信を持って」「自由に」生きる権利があること。
- ・3つの権利をとられそうになったら「イヤ」と言ってもいいし、「逃げる」こともできること。
- ・友達同士で助け合うことができること。
- ・信頼できる大人に相談すること。

保護者の方たちには、子どもたちに話す内容や、子どもの話を聴くためのアドバイスなどを話していただきました。保護者の方から次のような感想をいただきました。

子どもの話を聴いてあげることは大事なことなんだと改めて思いました。毎日、子どもの話を聴いてあげたいと思います。

いつも子どもを褒めるよりも怒っていることの方が多いので、もっとポジティブな言葉をかけるようにしたいと思いました。



今も世界では戦争が続いており、幼い子どもたちでさえも悲惨な目に遭っている様子が報道されているところです。子どもたちには自分も周りの人も大切にする気持ちを持って、お互いを傷つけることのないよう、願うばかりです。

楽しんでいますか

今できること、今しかできないこと

今から25年ほど前のことです。子どもが絶えず「抱っこ～」「おんぶ～」と私にねだっていました。頻繁にねだっていた時に近所のおじさんが通られたので「こんなこと(抱っこして～、おんぶして～)ばかり言うんですよ。しんどいわ。」と愚痴をこぼしたら、そのおじさんから「抱っこやおんぶ、今しかできないぞ。そのうち、できなくなる。今できることをたくさんやって楽しんでおかなかったら後悔するぞ。」その言葉を聞き、目からウロコでした。平日は帰る時間が遅く、祖父母に任せきりでしたが、それ以来、休日やたまに早く帰った日は子どもとの時間を優先しました。私にアドバイスをしてくださったおじさんのお陰で、幼かった子どもと一緒に過ごしたことをとても懐かしく感じます。



【お迎えを待ちわびる子どもたち】

お友達や保育者と楽しく過ごした後、夕方になって帰る時間が近づくと多くの子どもはそわそわとして、落ち着きません。中には、窓の外をぼんやりと見ながら、お家の人のお迎えを待っている様子を感じます。そして、待ちに待ったお迎えが来られた時、最高に嬉しい顔で、一緒に遊んでいたお友達や保育者に挨拶することも忘れて部屋を出て行きます。たまに、遊んでいたことをやめられないこともあります。お仕事がたいへんなこと、十分にわかります。でも休日には一緒に過ごされたり、平日にもし、少しでも早くお迎えができるのであれば迎えに来てあげたりしてほしいと思います。今しかできないこと、思う存分楽しんでみてはいかがですか。

